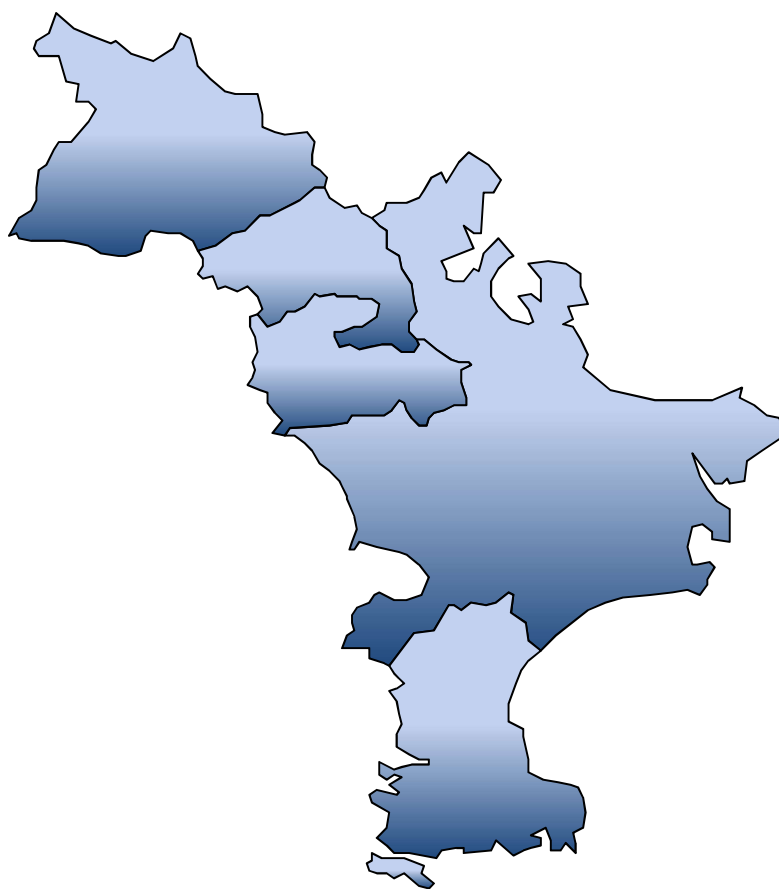




神奈川県

三浦半島魅力最大化プロジェクト

～資源を生かした地域の活性化戦略～



令和2年3月

目 次

プロジェクト改定の趣旨	1
プロジェクトの方向性	5
プロジェクトを推進する基盤づくり	8
プロジェクトのゴール	10
プロジェクトの指標	10
プロジェクトのKPI	10
プロジェクトの構成	11
プロジェクトの計画期間	11
プロジェクト	
Ⅰ 観光の魅力を高める	
1 海の魅力を高める	
① 多様な海の楽しみ方の提案	12
② “みなと”の賑わいづくり	13
2 食の魅力を高める	
③ 地産地消ブランディング	15
3 地域の魅力を高める	
④ 広域観光の展開・プロモーション	16
⑤ 外国人観光客等受入環境づくり	18
⑥ 新たな観光資源の発掘	20
⑦ 湘南国際村の活性化の推進	22
Ⅱ 「半島で暮らす」魅力を高める	
4 働く魅力を高める	
⑧ しごと「三浦半島スタイル」の確立	23
⑨ 半島農業の生産性向上	25
⑩ 「稼ぐ力」を高める産業の活性化	26
5 住む魅力を高める	
⑪ 「半島ライフ」の提案	28
⑫ 人生100歳時代に向けた未病改善の地域づくり	30
⑬ 個性あふれるコミュニティの再生・活性化	32
⑭ SDGsの推進	34
プロジェクトの推進について	35

プロジェクト改定の趣旨

- 三浦半島地域は、首都圏のベッドタウンとして発展してきましたが、近年では、他の地域との地域間競争が激化したことや、丘陵が多く平地が少ないという三浦半島特有の地形の影響もあって、既に人口減少が始まっています。
- 横須賀市では1992年の435,092人をピークとして減少傾向に転じ、三浦市では1994年の54,339人をピークとして減少しており、2025年の将来推計人口をみると、2015年国勢調査との比較で、三浦半島地域の4市1町（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市及び葉山町）の全てで人口が減少するとされています（表1）。
- また、この推計人口の内訳をみると、三浦半島地域全体で、65歳以上の老年人口の割合（高齢化率）は33.0%と、県平均（26.7%）を6.3ポイント上回る予測となっています（表1）。本県は、今後、全国屈指のスピードで急速に高齢化が進むと予測されていますが、中でも、三浦半島地域は、特に高齢化が進んでいる地域といえます。
- 一方で、三浦半島地域は都心から40km～60km圏内にあって、都心へも容易に行き来することができる通勤圏にありながら、三方に海が広がり、中央部には三浦丘陵が連なる、極めて自然豊かな地域です。こうした土地柄ゆえ、自然の観光資源が色濃く所在していますし、農畜水産業が盛んで、全国的にもブランド力のある三浦のダイコンやキャベツ、三崎マグロや湘南しらす、特有の肥育技術で育てる葉山牛をはじめとして、多彩な食材を生み出しています。
- また、東京湾と相模湾に挟まれ、多彩な表情を見せる海岸線には、特定第3種漁港の三崎漁港、第2種漁港の長井漁港・佐島漁港・間口漁港をはじめとして、4市1町の全てに漁港があり、マリンスポーツ・マリンレジャーの拠点となる「海の駅」も6か所あります（図1）。
- さらに、古都鎌倉や、横須賀の軍港などの近代化遺産をはじめ、4市1町それぞれに、歴史と文化に育まれた多彩な資源を有していることから、県全体の入込観光客数の2割近い、年間約3,600万人の観光客が訪れています（表2）。
- 以上のとおり、三浦半島地域は、既に人口減少が始まっている地域である一方、地域振興・人口減少対策を可能にするポテンシャル、他の地域にはない魅力を多数有しています。そこで、県と4市1町が連携して、2015年度から「海」や「食」など、三浦半島地域の多様な資源の魅力を生かした「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を推進し、活性化に取り組んできました。
- しかし、三浦半島全体の社会増減数をみると転出超過が継続しているなど、引き続き活性化に取り組む必要があることから、これまでの課題や市町の意見を踏まえて改定することとしました。県と4市1町では、このプロジェクトの方向性に沿って、地方創生の取組みを重点的に展開し、この地域ならではの魅力を生かし、先行的・先進的なモデルづくりを行うことにより、三浦半島地域の活性化を戦略的に進めていきます。

【表1 三浦半島地域4市1町の人口及び将来推計人口】

区 分	2015年		2025年将来推計人口		
	人口	高齢化率	人口 <2015年対比>	高齢化率	
横須賀市	406,586	29.6%	372,273 <91.6>	32.6%	
鎌倉市	173,019	30.6%	166,392 <96.2>	31.7%	
逗子市	57,425	31.4%	53,632 <93.4>	33.2%	
三浦市	45,289	35.5%	38,227 <84.4>	42.0%	
葉山町	32,096	30.8%	30,786 <95.9>	33.4%	
三浦半島計	714,415	30.4%	661,310 <92.6>	33.0%	
参考	神奈川県	9,126,214	23.6%	9,069,562 <99.4>	26.7%
	全国	127,094,745	26.6%	122,544,103 <96.4>	30.0%

備考 2015年の人口及び高齢化率は、国勢調査結果による。また、2025年将来推計人口の人口及び高齢化率は、国立社会保障・人口問題研究所の推計による。

【表2 2018・2014年神奈川県入込観光客調査結果】

区 分	2018年入込観光客数		2014年入込観光客数		
横須賀市	宿泊	384千人	8,572千人	326千人	7,847千人
	日帰り	8,188千人		7,521千人	
鎌倉市	宿泊	306千人	19,871千人	339千人	21,956千人
	日帰り	19,565千人		21,617千人	
逗子市	宿泊	19千人	1,001千人	21千人	800千人
	日帰り	983千人		779千人	
三浦市	宿泊	699千人	6,371千人	718千人	5,707千人
	日帰り	5,672千人		4,989千人	
葉山町	宿泊	24千人	811千人	32千人	587千人
	日帰り	786千人		555千人	
三浦半島計	宿泊	1,432千人	36,626千人	1,436千人	36,897千人
	日帰り	35,194千人		35,461千人	
神奈川県	宿泊	17,914千人	200,264千人	15,396千人	184,105千人
	日帰り	182,350千人		168,709千人	

【表2-2 2018年神奈川県入込観光客調査結果／観光客消費動向等調査（2018年実施）】

調査項目		三浦半島地域（構成比）	全県（構成比）
入込観光客数	日帰り	35,194千人（96.09%）	182,350千人（91.05%）
	宿泊	1,432千人（3.91%）	17,914千人（8.95%）
	計	36,626千人（100.00%）	200,264千人（100.00%）
平均消費単価	日帰り	5,200円	5,188円
	宿泊	21,075円	25,176円

【図1 三浦半島地域に所在する漁港、海の駅等】



【表3 三浦半島地域における転出入の状況】

男女計	総数	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
転入者数	24,318	1,461	718	398	2,768	3,475	3,317	2,713	2,221	1,717
転出者数	24,948	1,160	586	359	2,121	4,742	3,918	2,968	2,000	1,608
社会増減	-630	301	132	39	647	-1,267	-601	-255	221	109
《地域別内訳》										
東京都	280	152	51	-8	39	-357	-210	9	151	138
その他道府県	663	0	29	40	630	-315	189	6	74	20
神奈川県内	-1,573	149	52	7	-22	-595	-580	-270	-4	-49
川崎・横浜	-1,081	141	50	6	-4	-522	-499	-196	10	-28
三浦半島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県央	-104	5	-7	11	-8	-41	-17	3	1	-10
湘南	-388	-2	10	-10	-28	-33	-59	-74	-18	-11
県西	0	5	-1	0	18	1	-5	-3	3	0
男女計	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
転入者数	1,376	1,034	688	532	486	369	350	266	260	169
転出者数	1,293	1,019	631	503	465	409	371	326	275	194
社会増減	83	15	57	29	21	-40	-21	-60	-15	-25
《地域別内訳》										
東京都	71	67	61	47	51	15	6	-7	-1	5
その他道府県	24	-37	-15	-12	-27	-2	37	-5	16	11
神奈川県内	-12	-15	11	-6	-3	-53	-64	-48	-30	-41
川崎・横浜	-4	9	29	23	7	-38	-38	-2	-10	-15
三浦半島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県央	1	-13	3	-6	2	5	-8	-17	0	-8
湘南	-8	-15	-16	-16	-8	-15	-18	-28	-19	-20
県西	-1	4	-5	-7	-4	-5	0	-1	-1	2

備考 総務省「住民基本台帳人口移動報告（2018年）」から内閣官房が再集計したデータより作成。

プロジェクトの方向性

- 三浦半島の活性化を進めるためには、三浦半島らしさにこだわった地域振興策が必要となりますので、県では、「海」、「観光」、「三浦半島ライフ」をキーワードとして、それぞれの魅力を磨き、「マグネット力」を最大にして、三浦半島に「ヒト・モノ・カネ」を引き付けたいと考えています。
- 三浦半島地域においては、「観光」が主力産業の一つとなっていますので、観光の魅力を高め、観光客のリピーター化や滞在時間の拡大、新たな観光客層の開拓を進めていけば、観光産業の活性化によって、三浦半島全体の地域経済に好循環を生み出し、稼ぐ力を向上させることができます。
- しかしながら、プロジェクト策定前の2014年には3,690万人の入込観光客数であったところ、2018年では3,663万人で、年により、増減はありますが、概ね横ばいの状況になっています（表2）。
- このように、三浦半島地域の観光においては、その魅力が十分に生かされているとは言えませんので、さらなる魅力向上に取り組む必要があります。
- 具体的には、三浦半島を通ずるイメージとして思い浮かぶのは、何と云っても、「**海の魅力**」と「**食の魅力**」ですので、まずは、この二つの魅力を高めることによって、三浦半島らしさを際立たせるとともに、そのほかの「**地域の魅力**」を磨き、地域、民間と連携し、これらの観光資源をつなぐ仕組みづくりを進めます。さらに、湘南国際村の活性化等、2015年度のプロジェクト策定後の地域活性化の取組みを、新たにプロジェクトに位置付けます。
- また、三浦半島地域の人口動向は、2018年の1年間で、20歳代を中心に、630人の転出超過となっていますが（表3）、都心から40km～60kmにある他の地域と比較しますと、三浦半島は、都心へのアクセスが良好な首都圏のベッドタウンとしての機能と、海、山、緑のあるカントリーライフを過ごすことができる自然環境の両方の魅力を兼ね備えている地域といえます。
- このような地域特性を生かした暮らしぶり「三浦半島ライフ」においては、仕事とプライベートの両方を楽しむことができますので、この「暮らし」の魅力をさらに高め、三浦半島への移住を促進します。また、新たに、地域や地域の人と多様に関わる関係人口に着目し、将来の移住につなげるため、都心に近く訪れやすいという強みを生かし、地域の伝統行事やボランティア活動、農業体験などを通じた多様な交流機会の創出に取り組めます。
- そして、「三浦半島ライフ」を充実させるためには、三浦半島地域の産業を活性化し、働く場を確保するなど「**働く魅力**」とともに、健康寿命の延伸や生活の質の向上など「**住む魅力**」を高める必要がありますので、そうした環境づくりに取り組めます。
- 以上のとおり、このプロジェクトでは、「**観光の魅力**」と「**半島で暮らす魅力**」の2つを大きな柱に据えて、その中の5つの“魅力”を最大化し、この地域が直面する課題に対応していくため、14項目の個別プロジェクトに取り組めます。また、「**観光の魅力**」と「**半島で暮らす魅力**」を相互に組み合わせた取組みを、民間と一体となって総合的に展開して、三浦半島地域の活性化を図ります。

大柱1 観光の魅力を高める

「観光の魅力を高める」では、三浦半島のイメージを象徴する「海」の魅力と、豊かな自然からの恵みである「食」の魅力をそれぞれ高め、多くの観光客を惹きつけることができる「地域」の魅力を磨くことで、稼ぐ力の創出にもつなげます。

魅力1 海の魅力を高める

① 多様な海の楽しみ方の提案

海 食 地域 働く 住む

夏以外の季節の賑わい創出のため、海岸の有効活用を進めるなど、三浦半島の海に新たな観光客を呼び込む仕掛けづくりを行います。

② “みなと”の賑わいづくり

海 食 地域 働く 住む

マリナー、海の駅、漁港といった施設を活用した地域の賑わいづくりを行います。

魅力2 食の魅力を高める

③ 地産地消ブランディング

海 食 地域 働く 住む

三浦半島の食材のブランド力を高め、食と観光の連携を強化して観光客を呼び込みます。

魅力3 地域の魅力を高める

④ 広域観光の展開・プロモーション

海 食 地域 働く 住む

三浦半島全体を広域観光圏の形成に向け、観光の周遊化を図るとともに、三浦半島の魅力を一体的に発信し、「三浦半島ブランド」を確立します。また、MICEの誘客など回遊性の向上を進めます。

⑤ 外国人観光客等受入環境づくり

海 食 地域 働く 住む

羽田空港との近接性などを生かし、国内外の知名度の向上を図るとともに、インバウンド需要を取り込むため、外国人観光客等の受入環境づくりを進めます。

⑥ 新たな観光資源の発掘

海 食 地域 働く 住む

三浦半島観光の主体となっている首都圏からリピーターを獲得するとともに、新たな観光客層を開拓するため、里地里山、山、緑などの観光資源も含め相乗的に活用し、観光資源のシーズを掘り起こします。

⑦ 湘南国際村の活性化の推進

海 食 地域 働く 住む

三浦半島の中心に位置している湘南国際村について、民間活力も活用の上、交流・連携・活用を推進します。

大柱2 「半島で暮らす」魅力を高める

「『半島で暮らす』魅力を高める」では、都心へのアクセスが良好でありながら、雄大な海と深い緑に囲まれて暮らすことができる“ちょこっと田舎”という、三浦半島ならではの環境の中で「働く魅力」と「住む魅力」を高めます。また、マリンスポーツによるまちづくりなどにより、人口の流出を防止するとともに、関係人口※を広げる取組みを進めていきます。

※ 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、その中間の、地域や地域の人々と多様に関わる方

魅力4 働く魅力を高める

⑧ しごと「三浦半島スタイル」の確立

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

都心から40km～60km圏内に位置し、豊かな自然に恵まれた三浦半島に相應しい柔軟な働き方ができる環境を生かし、新たな産業や起業家の創出、育成に取り組み、三浦半島ならではの多様な働き方ができる仕事のスタイルを確立します。

⑨ 半島農業の生産性向上

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

首都圏の大消費地への生鮮野菜の供給源である三浦半島農業の生産性を向上させ、担い手農家の経営安定をめざします。

⑩ 「稼ぐ力」を高める産業の活性化

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

企業誘致や6次産業化による高付加価値化の推進などにより、稼ぐ力を高めます。

魅力5 住む魅力を高める

⑪ 「半島ライフ」の提案

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

“ちょこっと田舎”の三浦半島でしか体験することができないライフスタイルを提案・発信し、移住・定住の促進を図るとともに、関係人口を創出する取組みも推進します。

⑫ 人生100歳時代に向けた未病改善の地域づくり

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

新たなモビリティサービス等、最先端の技術の導入を図り、子どもから大人まで生き生きと充実した人生を送ることができるよう、人生100歳時代に向けた未病改善の地域づくりを進めます。

⑬ 個性あふれるコミュニティの再生・活性化

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

三浦半島の地域資源を活用し、他の地域にはない個性で、多くの人を惹きつける地域づくりを行い、「三浦半島ならではの」新たなコミュニティを創出します。

⑭ SDGsの推進

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

プラごみゼロ宣言の推進等を全国に先駆け実施することで、持続可能な都市としての魅力を向上させます。

プロジェクトを推進する基盤づくり

地域づくりを担う団体・企業等との連携促進

三浦半島地域を魅力ある観光圏とするためには、点から線へ、さらに線から面へと広がりをつくっていくことが重要となりますので、新たな広域観光推進組織（DMO（Destination Management/Marketing Organization））を中心に企業、地域、市町、県が一体となって、広域的な観光戦略を展開します。また、企業同士の連携など新たな動きが起きていることから、企業、団体、地域住民等との連携を進めます。

交通ネットワークの整備推進

- ◎ 三浦半島で課題となっている渋滞対策について、日常生活や観光などの経済活動を支える交通を活性化するため、様々な交通モードを活用し、半島内の安全でスムーズな移動、三浦半島へのアクセスの向上などの視点から検討します。
- ◎ 三浦半島への新たな交通アクセスとして、海上交通ルートの開拓について検討します。
- ◎ 道路ネットワークの整備については、自動車専用道路やインターチェンジ・観光地などにアクセスする道路の整備に取り組みます。

【改定・かながわのみちづくり計画】

道路整備計画（主な整備箇所）＜三浦半島地域関係箇所を抜粋＞

● 自動車専用道路網の整備

	路線・箇所名	箇所(区間)	2016～2025年
2	横浜湘南道路(首都圏中央連絡自動車道)	栄IC・JCT～藤沢IC	供用
3	高速横浜環状南線(首都圏中央連絡自動車道)	釜利谷JCT～戸塚IC	供用

○整備推進箇所

● インターチェンジ接続道路の整備

	路線・箇所名	箇所(区間)	工種	2016～2025年
2	(都)横浜藤沢線	鎌倉市関谷	現道拡幅(6車線)	供用

● 交流幹線道路網の整備

	路線・箇所名	箇所(区間)	工種	2016～2025年
1	(都)久里浜田浦線(開通済み)	横須賀市衣笠町～平作	道路新設(4車線)	供用
2	(都)安浦下浦線	横須賀市長沢	道路新設(4車線)	供用
3	三浦縦貫道路	横須賀市林～三浦市初声町高円坊	道路新設(2車線)	供用
4	三浦半島中央道路	横須賀市湘南国際村～芦名	道路新設(2車線)	整備
5	三浦半島中央道路	横須賀市芦名～山科台	道路新設(2車線)	整備
6	三浦半島中央道路	逗子市桜山～葉山町長柄	道路新設(2車線)	整備
7	三浦縦貫道路	三浦市初声町高円坊～下宮田	道路新設(2車線)	整備
8	(都)西海岸線	三浦市三崎町小網代～初声町下宮田	道路新設(2車線)	整備
17	(都)腰越大船線	鎌倉市台～小袋谷(大船立体)	鉄道立体交差	供用
18	(都)長谷常磐線	鎌倉市長谷	道路新設(2車線)	整備
19	(都)横浜鎌倉線	鎌倉市岩瀬	現道拡幅(2車線)	供用

出典：改定・かながわのみちづくり計画

プロジェクトのゴール

このプロジェクトは、県の地方創生に向けた「第2期神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付け、同戦略の期間中（2024年度まで）に、「かながわシープロジェクト」、「新たな観光の核づくり」、「未病を改善する取組み」「人生100歳時代」、「SDGsの推進」といった他の県施策との連携を図りながら、5つの魅力を最大化することによって、

- ・ 地域の賑わいをつくりだし
- ・ 仕事と生きがいを創出し
- ・ 人口減少を食い止める

というゴールに向かって、14項目の個別プロジェクトが連動して、それぞれの機能が最大限に発揮されるよう、持続的に取り組みます。

プロジェクトの指標※

指標	目標値 (2024年)
三浦半島地域4市1町の社会増減数 (基準年(2018年)に対する増減数) (暦年)	+630人

※ プロジェクトの指標：本プロジェクトの政策の達成度合いを一定の期間を単位として検証するための指標で、5年後の目標値。

プロジェクトのKPI※

KPI	実績値	目標値
三浦半島地域4市1町の観光客消費額(暦年)	1,196億円 (2018年)	1,280億円 (2024年)
三浦半島地域4市1町の入込観光客数(暦年)	3,663万人 (2018年)	3,770万人 (2024年)
三浦半島地域における各種イベント参加人数	141,000人 (2018年度)	160,000人 (2024年度)
県民ニーズ調査における「現在のところに住み続けたい」と思う人の三浦半島地域の割合	67.3% (2018年度)	72.0% (2024年度)

※ KPI（重要業績評価指標）：Key Performance Indicatorの略称で、実施した施策・事業の進捗状況や効果を検証する際に、達成の度合いを測るために設定する指標。

プロジェクトの構成

5つの魅力を最大化する

I 観光の魅力を高める

1 海の魅力を高める

- ①多様な海の楽しみ方の提案
- ②“みなと”の賑わいづくり

2 食の魅力を高める

- ③地産地消ブランディング

3 地域の魅力を高める

- ④広域観光の展開・プロモーション
- ⑤外国人観光客等受入環境づくり
- ⑥新たな観光資源の発掘
- ⑦湘南国際村の活性化の推進

II 「半島で暮らす」魅力を高める

4 働く魅力を高める

- ⑧しごと「三浦半島スタイル」の確立
- ⑨半島農業の生産性向上
- ⑩「稼ぐ力」を高める産業の活性化

5 住む魅力を高める

- ⑪「半島ライフ」の提案
- ⑫人生100歳時代に向けた未病改善の地域づくり
- ⑬個性あふれるコミュニティの再生・活性化
- ⑭SDGsの推進

プロジェクトを推進する基盤づくり

地域づくりを担う団体・企業等との連携促進

交通ネットワークの整備推進

プロジェクトの計画期間

2020年度～2024年度

I 観光の魅力を高める

1 海の魅力を高める

1

多様な海の楽しみ方の提案

三浦半島の海では、様々なマリンスポーツを楽しむことができますが、「機会がない」、「費用がかかる」など、マリンスポーツ参加へのハードルは高いという印象があります。そこで、そのハードルを引き下げるなど、多様な海の楽しみ方を提案し、海の魅力で観光客を呼び込みます。

また、初詣の時期に観光客が集中する鎌倉市を除いた三浦半島の3市1町は、7、8月の2か月に観光客が集中していることから、他の時期にも観光客を呼び込むため、海岸を活用した夏以外の季節の集客に取り組みます。

海 食 地域 働く 住む



ウインドサーフィン体験

プロジェクトのねらい

- 夏以外の季節の賑わい創出
- マリンスポーツの普及、その聖地としての三浦半島ブランドの確立

想定される取組み

※ 県全域を対象にしている取組みも含まれます（以下同じ）。

○ 海岸を活用した賑わいの創出（県・市町・民間）

海 食 地域 働く 住む

夏に観光客が集中していることから、夏以外の季節の賑わい創出に向けて、市町や民間等と連携し、海岸の一層の活用に取り組むとともに、地元グルメ等の観光資源と組み合わせることで、地域の活性化につなげます。

○ 観光資源としての海の活用（県・市町・民間）

海 食 地域 働く 住む

三浦半島の海は、“遊ぶ”楽しさにあふれています。そこで、海岸に来ていただくだけでも、三浦半島の海の魅力を知っていただけるよう、プロジェクトマップの海浜投影など、夜に行うイベントも実施し、観光資源としても海を活用します。

また、鎌倉海岸（由比ガ浜）において、道路からビーチに降りる勾配の緩やかなスロープ設置等により、誰もがマリンスポーツに親しむことができる「バリアフリービーチ」の環境づくりを進めます。

海 食 地域 働く 住む

○ 国際的スポーツイベントの開催（県・市町・民間）

2017年度からは、横須賀市津久井浜でウインドサーフィンワールドカップを開催しており、2019年度は、三浦海岸をサブ会場としてさらなる拡大を図っています。引き続き大会の魅力を高めていくことにより、三浦半島の海の国際的なブランド力の向上を図り、マリンスポーツによるまちづくりを進めます。

“みなと”の賑わいづくり

三浦半島には、海（プレジャーボート）と陸（自動車）の両方からアプローチすることができるマリンスポーツ・マリンレジャーの拠点である「海の駅」が、よこすか・ふかうら、うらが、みうら・みさき、こあじろ・シーボニアマリーナ、はやま港、しょうなん・逗子マリーナの6か所にあります。

また、4市1町の全てに漁港があり（県内25漁港のうち三浦半島地域に13漁港）、さらに、変化に富んだ海岸線には、多くのマリーナがあります。

このように“みなと”は、三浦半島の豊かな自然や海からの恵みを象徴する地域資源となっていますので、その賑わいをつくるための取組みを進めます。



クルージングツアー

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

プロジェクトのねらい

- クルージングツアーを活用した海への誘客
- 海上交通網（シーレーン）の整備推進
- 観光資源としての漁港の活用
- 港湾の整備による賑わいの創出

想定される取組み

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ かながわシープロジェクト（海洋ツーリズム）の展開（県・市町・民間）

海からの景観を観光コンテンツとした海洋ツーリズムの展開として、相模湾をクルージングするツアーの造成など、三浦半島の海に多くの人を呼び込みます。

また、半島という地域特性を生かし、渋滞を気にせずに海の魅力を体感しながら、クルーズ気分で快適に移動できる海上タクシーの実現をめざした取組みを進めます。

○ 水産業の活性化の推進（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

水産業の活性化を図るため、資源回復計画の推進、種苗放流による栽培漁業の推進、漁港の高機能・長寿命化、漁業経営の効率化、漁業就業支援等を推進します。

○ 三崎漁港二町谷地区開発促進（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

「三浦市二町谷地区海業振興をめざす用地利活用プロジェクト」において決定した多目的活用事業用地における契約候補者と、三浦市は 2018 年度に基本協定を締結しました。引き続き関係機関と調整しながら、国際的な経済活動拠点の整備を行います。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ 漁港のブランディング、漁港の整備推進（県・市町・民間）

漁港の輸出戦略の見直しを行い、協議会による国際見本市への出展や、海外展開する事業者への支援、新規輸出事業者を増加させるためのセミナー開催等に取り組み、稼ぐ力の創出につなげます。

○ 港湾の整備推進（県・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

葉山港については、港湾管理者と民間事業者との連携スキームについて他港の事例を調査し、大型船等の受入が可能な港としての整備に向けて、施設配置計画や諸課題の検討を行います。

地産地消ブランディング

三浦半島は、都心から日帰りでアクセスすることができる観光地であり、首都圏のベッドタウンでもあります。豊かな農産物、畜産物、水産物に恵まれており、第一次産業が盛んな地域でもあります。

このように、三浦半島には、四季ごとに旬を迎える様々な食材がありますので、観光の観点からの「地産地消」の推進に向けたブランディングを強化し、多くの方に、「食」を求めて産地まで訪れていただけるようにします。

海 食 地域 働く 住む



三浦半島はイタリア半島プロジェクト

プロジェクトのねらい

- 三浦半島の「食」の魅力を生かした稼ぐ力の向上
- 三浦半島の食材のブランド力強化・産地の知名度向上
- 三浦半島の特性を生かした「食」による観光客の呼び込み

想定される取組み

○ 食を基軸としたイベントの展開 (県・民間)

海 食 地域 働く 住む

三浦半島産食材や加工品をインターネット上で販売するほか、半島内外でのイベントに出展して、三浦半島はイタリア半島プロジェクト*をPRするとともに、半島内の農畜水産物や地場産品、6次産業の加工品などの販売や紹介を行い、ブランド価値を上げることで、三浦半島での稼ぐ力を向上させます。

※ 三浦半島はイタリア半島プロジェクト：細長く南東に伸び、その傾き角度も同じよう
で、四季があり緯度の差も少なく、地形の印象もブーツ型。東西南の三方を海に囲まれた
豊かな漁場で獲れる魚介類や、ミネラルたっぷりの南風と南方のやや温暖な気候を生
かした農作物など、イタリア料理で使用する全国では珍しいと思われる食材も三浦半島
で入手することができる。こうした類似点から「三浦半島はイタリア半島」をキーワー
ドに三浦半島の魅力を発信していくプロジェクト。

○ 農水産物のブランド化 (県・市町・民間)

海 食 地域 働く 住む

農業協同組合や漁業協同組合と連携し、食材のブランド力をさらに高めるとともに、その産地の知名度を向上させることによって、産地そのものが観光資源となるよう、食と観光の連携強化に取り組みます。

海 食 地域 働く 住む

○ 地域の産品を活用した情報発信 (県・市町・民間)

アンテナショップ「かながわ屋」において、三浦半島フェアを開催するなど、かながわ産品の展示・販売を通じて、産品の魅力を広く発信し、知名度の向上を図ります。

I 観光の魅力を高める

3 地域の魅力を高める

4

広域観光の展開・プロモーション

海 食 地域 働く 住む

日帰り観光客が多く、観光客の消費単価が伸びないという三浦半島観光の課題を解決するため、広域観光圏の形成に向けて、三浦半島の観光を点から線へ、さらに線から面へと広げて観光の周遊化を図るとともに、多様なメディアを活用して、三浦半島の魅力を一体的に発信することにより、「三浦半島ブランド」を確立します。



また、三浦半島の4市1町の市長・町長で構成する三浦半島サミットによる「自転車半島宣言」に基づく事業を推進します。

プロジェクトのねらい

- 広域観光周遊ルートの作成
- 観光客の平均消費単価の増加・滞在時間の拡大
- 三浦半島の観光スポットを巡るアクセス手段としての自転車の活用

想定される取組み

○ 三浦半島の回遊推進（県・市町・民間）

海 食 地域 働く 住む

三浦半島内での滞在時間を増加させるため、施設改修を行うほか、他地域から三浦半島を回遊するルートを提案するなど、1,000通りのツアーの行程も活用して、三浦半島内の回遊を推進させます。

体験型コンテンツなど、魅力ある観光資源の活用による地域の回遊推進によって、滞在時間を拡大し、稼ぐ力の向上につなげます。

海 食 地域 働く 住む

○ 三浦半島の魅力発信、イベント実施（県・市町・民間）

三浦半島広域観光情報サイト「LAUMI」※（ラウミ）、SNS等のメディアを活用し、三浦半島で実施する自然や観光資源を利用したイベント情報をきめ細かくタイムリーに発信するとともに、三浦半島地域連携DMO交流拠点「LAUMI」等においても、動画やパンフレット等を活用して情報発信を行うなど、三浦半島地域の知名度の向上を図ります。

※ LAUMI

「LAUMI」とは三浦半島（横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町）の魅力の象徴「海」にイタリア語の冠詞「la」をつけた造語。逆から読むとミウラとなる。

三浦半島の広域観光のアイコンとして使用。

三浦半島広域観光情報サイト「LAUMI」では、三浦半島の魅力的な風景や街並みスポットなどを写真、マップを使って紹介。



○ 自転車を活用した回遊推進（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

公共交通機関等と連携し、観光客の利便性を高める2次交通の手段として自転車を活用した交通ネットワークの構築を進めるとともに、地域の交通事情や安全性を踏まえつつ、地域の観光資源の魅力を活用した観光ルートを設定し、県内を訪れる観光客の周遊観光を促します。

太平洋岸自転車道における走行環境の整備を進めるほか、マイルストーン※（設置場所の観光ポイントを象徴する案内表示モニュメント）を巡るサイクリングルートや休憩スポットであるサイクルステーション※を紹介する記事を掲載するなど、サイクリストに訴求するPRを行い、三浦半島に多くのサイクリストを呼び込みます。

※ マイルストーン／サイクルステーション

自転車で三浦半島を訪れる観光客に対し、より快適に楽しめるよう、三浦半島観光連絡協議会及び同協議会を構成する4市1町は、地方創生交付金（先行型）を活用し、2015年度に、次の場所に設置した。

- | | |
|------|------------------|
| 横須賀市 | ① 県立観音崎公園（たたら浜） |
| | ② 北下浦海岸通り第2駐車場 |
| | ③ 荒崎公園 |
| 鎌倉市 | ④ 鎌倉海浜公園（由比ガ浜地区） |
| 逗子市 | ⑤ 小坪飯島公園 |
| 三浦市 | ⑥ 宮川公園 |
| 葉山町 | ⑦ 長者ヶ崎駐車場 |
| | ⑧ 湘南国際村センター |



湘南国際村センターに設置（ツツジ）

I 観光の魅力を高める

3 地域の魅力を高める

5

外国人観光客等受入環境づくり

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、首都圏には、多くの外国人旅行者が訪れるようになります。

三浦半島は、空の玄関口となる東京国際空港（羽田空港）からのアクセスが良く、さらに、相模湾は、江の島で開催するオリンピック・セーリング競技の舞台となりますので、大会後も見据え、外国人旅行者を呼び込み（インバウンド需要の取込み）、三浦半島の国際的な知名度を上げることができるよう、外国人観光客等の受入環境づくりを進めます。



城ヶ島（ウミウ展望台）
（シユェン・ケリノガイト・ジャポソ★★）

海 食 地域 働く 住む

プロジェクトのねらい

- 三浦半島を訪れる外国人観光客等の増加
- 三浦半島の国際的知名度の向上

想定される取組み

○ 観光関連施設の利便性向上（Wi-Fi、キャッシュレス決済）（県・市町・民間）

県内の観光関連施設等に対し、Wi-Fi（無料公衆無線LAN）環境整備や案内板の多言語化等の促進を図ります。また、国内外からの観光客の消費活動を促進するため、県内事業者等に対し、クレジットをはじめとするキャッシュレス決済サービスや免税販売の導入などに関する情報提供に取り組みます。

海 食 地域 働く 住む

○ おもてなし人材の育成（県・市町・民間）

神奈川を訪れた外国人観光客の満足度を高める上で、おもてなし人材の育成が重要であることから、県内の善意通訳ガイド*の活動を支援します。

また、県内の通訳ガイドやガイド志望者に対し、研修会等を実施し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催時や、大会終了後も活動できる観光ガイドの充実に取り組みます。

海 食 地域 働く 住む

※ 善意通訳ガイド：日本政府観光局（JNTO）が提唱、推進する「善意通訳普及運動」に賛同し、JNTOに登録している個人または団体のこと。

○ 外国人観光客向け広報（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

外国人の目線で必要とされる情報を掲載した外国語観光情報ウェブサイトによる情報発信により、受入環境整備や神奈川の知名度の向上を図ります。

また、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」改訂第6版（フランス語）では、三浦半島や城ヶ島が二つ星★★「寄り道する価値がある」として、鎌倉が三つ星★★★「わざわざ旅行する価値がある」として掲載されており、このほかにも、三浦半島内の多くの観光スポットが紹介されているため、フランス語圏以外の外国人観光客にも周知し、インバウンド需要を呼び込みます。

○ 健全な民泊サービスの推進（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

観光客の多様な宿泊ニーズに対応するため、健全な民泊サービスの推進を図ります。

また、国内外の教育旅行向けに、農山漁村が有する豊かな自然や歴史、文化、農林水産物等の地域資源を活用した地域ならではの民泊を推進する取組みを支援することで、三浦半島の知名度の向上を図ります。

I 観光の魅力を高める

3 地域の魅力を高める

6

新たな観光資源の発掘

観光客の消費単価を上げるには、三浦半島内にある多数の観光資源の周遊を促すことが必要です。

そこで、首都圏からリピーターを獲得し、さらに、若年者層の観光客を呼び込むことができるよう、これまで観光資源としての活用が進んでいなかった里地里山、山、緑なども含め、観光資源の発掘・磨き上げを進めます。

海 食 地域 働く 住む



小網代の森

プロジェクトのねらい

- 着地型旅行プランの企画
- 三浦半島らしい観光資源の発掘・磨き上げ
- 地元の連携強化

想定される取組み

海 食 地域 働く 住む

○ MICE^{※1}を呼び込むユニークベニュー^{※2}の推進（県・市町・民間）

消費単価の高いMICEを誘致するため、県の観光資源である歴史的な建造物や文化施設などを会議やレセプション会場等として活用するユニークベニューの発掘・磨き上げを推進します。

※1 MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/ Event）の頭文字から成る造語。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

※2 ユニークベニュー：歴史的建造物をはじめ、美術館、博物館、寺社仏閣など、歴史や伝統、文化・芸術などに触れることができる施設や、能楽堂や酒蔵、商店街や水族館など、特別なプログラムなどを演出できる場所で、特別な時間や感動を提供できる施設や空間などを指す。

○ 小網代の森の保全と活用 (県・市町・民間)

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

2014年7月の一般開放以来、小網代の森には、多くの観光客が訪れています。が、リピーターになってもらうためには、散策後に、他の観光スポットを巡る周遊プランを提供する必要があります。

小網代の森の保全を行う一方で、インフォメーションスペースやトイレなどの整備を踏まえ、小網代の森の活用も進めていきます。

○ 里地里山の保全と活用 (県・市町・民間)

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

里地里山は、良好な景観の形成や生活文化の伝承など、地域の魅力となる多面的機能を有しています。

これらの多面的機能をより発揮させ、次世代へ継承するため、里地里山の保全活動に関する情報発信を行い都市住民の参加を促すなど、地域における里地里山の保全活動を支援します。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ 観光の核づくり(城ヶ島西部地区の再整備等) (県・市町・民間)

横浜・鎌倉・箱根に次ぐ海外にも強力に発信できる魅力的な観光地の創出をめざす観光の核づくり地域である城ヶ島・三崎地域では、城ヶ島西部地区再整備、二町谷地区における高級リゾート計画、スーパーヨットの誘致など、官民連携による取組みなどが進められています。

このような民間事業者と連携した主体的な取組み等に対して支援をすることで、新たな観光需要の呼び込みを図ります。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ 新たな観光資源の発掘・磨き上げ (県・市町・民間)

三浦半島地域には、猿島、軍港など近代化遺産も数多く存在しますので、こうした歴史的な価値を有する地域の宝を掘り起し、新たな観光資源となるよう、地元とともに、その磨き上げに取り組み、地域活性化につなげます。

I 観光の魅力を高める

3 地域の魅力を高める

7

湘南国際村の活性化の推進

海 食 地域 働く 住む

湘南国際村は、“歴史と文化の香り高い21世紀の緑陰滞在型の国際交流拠点”として1994年に開村しました。

「海」や「食」などの魅力を生かして三浦半島地域の活性化を図っていく上で、湘南国際村は三浦半島の中心部に位置しており、新たな周遊地点となりうる場所と考えられます。そこで、2019年3月に改訂した湘南国際村基本計画に基づき、民間活力も活用しながら湘南国際村を活性化するとともに、その賑わいを三浦半島全体の活性化につなげていくことをめざします。



湘南国際村

プロジェクトのねらい

- 生活環境の向上・交流人口の増加
- 地域資源の新たな活用

想定される取組み

海 食 地域 働く 住む

○ 湘南国際村の交流・連携の強化（県・市町・民間）

湘南国際村の魅力を向上させるとともに、発信力を強化することで、三浦半島の各地域と連携しながら交流人口を増加させていきます。さらに三浦半島の中心部に位置する強みを生かし、三浦半島内の新たな周遊地点として活性化していきます。

海 食 地域 働く 住む

○ 湘南国際村BC地区（めぐりの森）※の利活用（県・市町・民間）

県が所有する湘南国際村BC地区や仮設駐車場として利用している土地に民間活力を活用しながら、自然環境を生かした芸術、スポーツ、レクリエーション機能を強化することによって、さらなる活用を促進します。

※ 湘南国際村BC地区（めぐりの森）：湘南国際村の東側に位置し、大楠山に連なる緑の再生・保全と活用を図る地区。

しごと「三浦半島スタイル」の確立

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

2015年国勢調査によると、三浦半島地域は女性の就業率が43.73%と県内で最も低くなっています。

そうした中、都心から40kmから60km圏内に位置し、豊かな自然環境に恵まれた三浦半島では、ICT産業の創業や、テレワークによる柔軟な働き方が生まれつつあります。

このような、三浦半島ならではの多様な働き方が実現できる仕事スタイルの確立、そのための就労機会の創出を進めます。



テレワークの研修会

プロジェクトのねらい

- 三浦半島らしい就労環境の実現・仕事スタイルの確立
- 地域経済の核となる、新たな雇用の創出

想定される取組み

○ イノベーション創出拠点の運営（県）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

県経済を牽引するベンチャー企業の創出・育成を促進するため、起業準備者をベンチャー企業へと育てていくための拠点を設置し、支援プログラムを実施します。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ サテライトオフィス、テレワーク導入促進（市町・民間）

テレワークは、在宅時間が増えることによる子育てや介護の社会的課題の解決手段として、また、通勤時間の短縮や交通渋滞の解消策として期待されています。

そこで、ICTを活用し、場所や時間を選ばない柔軟な働き方として、特にクラウドソーシングによる「自営型テレワーク」の普及・促進を図るなど、自宅に居ながら、あるいは育児や介護をしながら就労できる、三浦半島ならではの就労環境の整備を進めます。また、テレワーク等の現状及び今後の必要性や可能性を調査し、コワーキングスペース等の環境整備に向けた実施スキームを検討します。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ 将来の「地元」を担う人材育成（県・市町・民間）

三浦半島では、電波・情報通信技術を中心としたICT技術の産業集積などが進んでいることから、この地域の特色を生かした産業人材の育成を進めます。

○ 地域課題を解決する起業支援（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

空き店舗を活用した地産地消レストランやゲストハウスの運営など、地域の課題解決や活性化に取り組む事業者が増えてきていることから、そうした動きを支援するしくみを検討し、住む人や訪れる人だけでなく、働く人にも魅力ある地域づくりを促進します。

半島農業の生産性向上

三浦半島は、温暖な気候を生かし、台地に広がる畑作地帯では、ダイコンやキャベツなどが栽培され、全国有数の露地野菜の産地となっています。

このため、首都圏の大消費地への生鮮野菜の供給源である三浦半島農業の生産性を向上させ、担い手農家の経営安定をめざします。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----



ダイコン畑（三浦市）

プロジェクトのねらい

- 担い手農家の経営安定による三浦半島農業の発展

想定される取組み

- 畑地かんがい施設の整備推進（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

三浦半島は、年間降水量が少なく、栽培に適した時期に散水や防除を行うための安定した農業用水等の水源がありませんので、干ばつ時には、ダイコンやキャベツ等の農作物にかん水不足による生育不良などが見受けられます。

そこで、地下水を利用した畑地かんがい施設などを総合的に整備することにより、年間降水量に左右されない生鮮野菜の供給と、農業の担い手の安定的な経営を実現します。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

- 基幹的農業用水路等の整備推進（県・市町・民間）

三浦半島では、近年、夏場における集中豪雨などにより、畑の耕作土が流れ出し、農業用排水路に土砂が堆積するなど、排水路の流下能力を阻害する要因となっています。

また、排水路を管理するスペースも無く、作業機械が搬入できないため、農家の人力により土砂の撤去を行っていますが、土砂の堆積に作業が間に合っていないです。

そこで、基幹的農業用水路の整備にあわせて管理道等を整備し、維持管理や営農の省力化を図り、生産性の向上をめざします。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

- 農地・農業用施設の地域ぐるみでの保全活動の推進（県・市町・民間）

三浦半島の農地や農業用水等の農業資源は、農業者の減少や高齢化等の進行に伴う集落機能の低下により、適切な保全管理が困難となってきました。

そこで、農業資源の保全を図るため、地域ぐるみでの活動や長寿命化に取り組む活動等に対し支援を実施します。

「稼ぐ力」を高める産業の活性化

海 食 地域 働く 住む

三浦半島地域では、近年、大規模製造業の生産施設の撤退、縮小など、これまでの経済構造の変換が進んでいます。そうした状況下において、雇用機会の拡大や地域の活性化を進めるには、さらなる産業の活性化が必要です。

そこで、既存産業高付加価値化、企業誘致、漁港のブランディング、整備などを進めることで、稼ぐ力を高め、地域の活性化を進めます。



とろまん(6次産業化による地域活性化例)

プロジェクトのねらい

- 企業誘致の推進による産業の活性化
- 既存産業の活性化

想定される取組み

海 食 地域 働く 住む

○ 企業誘致の推進（セレクト神奈川NEXTなど）（県・市町・民間）

企業誘致施策「セレクト神奈川NEXT」では、県内企業の再投資や中小企業の立地に対する支援を拡充・強化するとともに、特定の地域に限定して支援対象産業の拡大等を行うことにより、県内経済のさらなる活性化と雇用の創出を図ります。

また、都内で企業向け投資セミナーを開催するなど、企業誘致に取り組みます。

○ 研究機関との連携促進（県・市町・民間）

海 食 地域 働く 住む

三浦半島に数多くの研究機関が立地している特性を生かし、研究機関等との協力連携及び研究機関相互の連携を強化し、産業の集積・創出を図ります。

海 食 地域 働く 住む

○ 6次産業化による農畜水産加工品及びサービスの高付加価値化（県・市町・民間）

三浦半島地域は、農業、水産業が盛んですが、都心への通勤圏にあって、首都圏という大きなマーケットを有しており、観光業などの異業種間で連携すれば、三浦半島が持つ強みを最大限に活用することが期待できますので、付加価値の高い新たな農畜水産加工品の開発や観光と組み合わせたサービスの創出を図ることにより、6次産業化を支援します。

○ **【再掲】漁港のブランディング、漁港の整備推進**（県・市町・民間）

漁港の輸出戦略の見直しを行い、協議会による国際見本市への出展や、海外展開する事業者への支援、新規輸出事業者を増加させるためのセミナー開催等に取り組み、稼ぐ力の創出につなげます。

○ **磯焼け※対策**（県・市町・民間）

三浦半島では「磯焼け」により、海藻や貝類等の減少が懸念されています。

磯焼けの原因生物のひとつであるムラサキウニについては、水産技術センターがキャベツなどの野菜残渣を与えて育てる養殖技術の開発に取り組んでいます。商品価値のない水産物を地域の特産品として商品化することで、持続的な磯焼け対策につなげるとともに、稼ぐ力の創出をめざします。

※ **磯焼け**：もともと海藻が繁茂していた磯場において、藻食性生物による食害や栄養塩類の不足などの要因によって、海藻類がほぼなくなった状態。磯根資源（アワビ、サザエ、イセエビなど磯に生息する水産動物）の維持・回復に悪影響を与えている。

○ **【再掲】三浦半島の回遊推進**（県・市町・民間）

三浦半島内での滞在時間を増加させるため、施設改修を行うほか、他地域から三浦半島を回遊するツアーを企画するなど、1,000通りのツアーの行程も活用して、三浦半島内の回遊性を向上させます。

体験型コンテンツなど、魅力ある観光資源の活用による地域の回遊推進によって、滞在時間を拡大し、稼ぐ力の向上につなげます。

11

「半島ライフ」の提案

三浦半島地域は、自然豊かな「半島」にありながら、都心と容易に行き来することができる距離にありますので、都会暮らしと田舎暮らしの両方を体験することができます。

こうした他の地域では体験することができない「半島ライフ」を提案して、関係人口の創出を図るとともに、三浦半島への移住を促進します。

さらに、地域特性を生かした新たな視点による地域ブランディングを進め、現在、三浦半島内に住む方々の定住促進、Uターン促進にも取り組みます。



移住促進

プロジェクトのねらい

- 関係人口の創出を通じた移住・定住の促進
- 地域特性を生かした新たな視点による地域ブランディング

想定される取組み

○ 関係人口※の創出（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

県内への移住を促進するため、従来から行っている住まいや仕事等に関する相談に加え、関係人口の増加につながる計画の策定や市町村のイベントやボランティア募集等に関する情報提供・PRを行うとともに、地域のイベントでの出張相談や市町村・大学と連携した出前講座等を実施します。

※ 関係人口：移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、その中間の、地域や地域の人々と多様に関わる方

○ 空き家の利活用（市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

総務省の2018年住宅・土地統計調査によると、神奈川県全体の空き家率は、10.8%ですが、三浦半島地域は、全市町が県平均を上回っている状況です。

そこで、空き家相談員派遣に新たに取り組み、移住施策と連携することで空き家活用・移住促進を図ります。

○ 移住促進（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

移住者が体験している日々の生活や地元との交流、観光の穴場など、移住希望者が知りたい、実際の「半島ライフ」の情報を、ウェブサイト等を通じて、きめ細かく発信します。また、「ちょこっと田舎・かながわライフ支援センター（東京・有楽町）」で移住相談を受け、移住を促進します。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ 音楽、ダンス、アートをはじめとした文化芸術やスポーツ等による地域ブランディング（県・市町・民間）

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承するスポーツイベントや、若年層を中心に競技人口が拡大してきている「アーバンスポーツ」や「e スポーツ」をはじめ、文化芸術やスポーツ等、地域の特性やポテンシャルを生かした地域ブランディングを進めます。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ 【再掲】国際的スポーツイベントの開催（県・市町・民間）

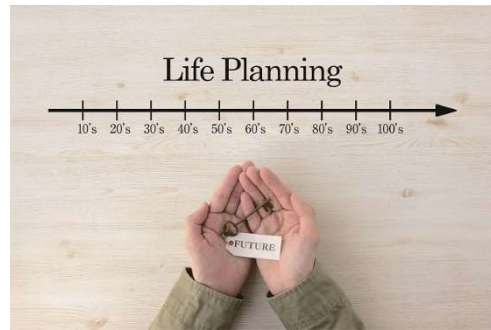
2017 年度からは、横須賀市津久井浜でウインドサーフィンワールドカップを開催しており、2019 年度は、三浦海岸をサブ会場としてさらなる拡大を図っています。引き続き大会の魅力を高めていくことにより、三浦半島の海の国際的なブランド力の向上を図り、マリンスポーツによるまちづくりを進めます。

人生 100 歳時代に向けた未病改善の地域づくり

三浦半島は、県内でも特に高齢化が進んでいる地域であるため、未病を基軸とした取組みや健康長寿のまちづくりを進め、超高齢社会を乗り越える社会システムを創っていくことが必要です。

高齢化が進んでいる地域も、新たなモビリティサービス等、最先端の技術の導入を図り、子どもから大人まで生き生きと充実した人生を送ることができるよう、人生 100 歳時代に向けた地域づくりを進めます。

海 食 地域 働く 住む



人生 100 歳時代

プロジェクトのねらい

- 人生 100 歳時代におけるライフデザイン設計の促進
- 最先端の技術を活用した地域課題の解決
- 三浦半島サミット「未病を改善する半島宣言」の取組みの推進
- 在宅医療・介護連携の推進による効率的な医療体制の提供

想定される取組み

海 食 地域 働く 住む

○ 人生 100 歳時代におけるライフデザイン支援（県・市町・民間）

人生 100 歳時代において、子どもから大人まで生き生きと充実した人生を送ることができるよう、かながわ人生 100 歳時代ネットワークが中心となって、様々な学びの場から活動の場につなぐプロジェクトを推進するとともに、学びの機会の拡大や、県民への情報発信、県民の意識転換を図ります。

海 食 地域 働く 住む

○ 新たなモビリティサービス等、最先端の技術の導入（県・市町・民間）

新たな技術の活用による地域課題の解決に向け、県や市町、企業等の取組みと連携し、リビングラボやドローン、スマートモビリティ等の最先端技術の導入などによって、未病改善や交通等の生活環境の改善を図ります。

海 食 地域 働く 住む

○ 未病を改善する環境づくり（県・市町・民間）

三浦半島サミットで採択された「未病を改善する半島宣言」を推進するため、県の「かながわ未病改善宣言」の取組みと協調して、健康寿命延伸の取組みなどを県・市町・民間の連携・協力を図りながら進めます。

○ 在宅医療・介護連携の推進（県・市町）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

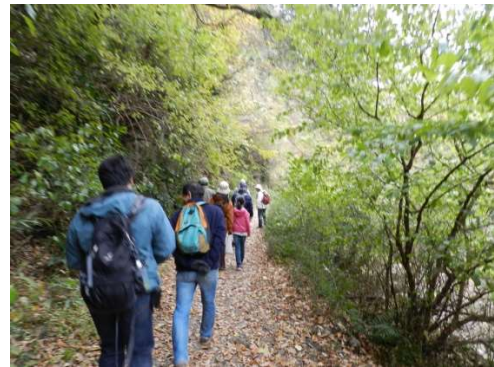
高齢者の増加に伴い、終末期の療養場所として自宅での療養や看取りを希望している人が増加しており、高齢化が進む三浦半島でも、在宅医療と介護の連携が喫緊の課題となっています。

県では、2025年の医療需要を推計して効率的な医療体制の提供をめざす「地域医療構想」を2016年10月に策定し、また、横須賀・三浦二次医療圏である三浦半島の4市1町においても、相互に連携し、最期まで住み慣れた地で穏やかな人生を送ることができる三浦半島の実現をめざしていますので、この目的の達成に向けて、在宅医療・介護連携を推進します。

個性あふれるコミュニティの再生・活性化

三浦半島には、自然からの多彩な恵みや、歴史と文化に育まれてきた暮らしがありますので、そうした資源を活用して、他の地域にはない、多くの人を惹きつける、個性あふれる地域づくりを行い、「三浦半島ならではの」コミュニティを再生・活性化します。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----



ウォーキング（二子山）

プロジェクトのねらい

- コミュニティの再生・活性化による住む魅力の向上
- 三浦半島をアウトドアの拠点とするための施設の誘致

想定される取組み

○ コミュニティの再生・活性化（県・市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

地域課題と向き合っている市町や企業・団体等と連携し、取組事例の共有や課題解決に向けた議論を行うとともに、地域で活躍している団体等の取組みを後押しすることにより、コミュニティの再生・活性化を図ります。

また、都会に住む活動的な高齢者（アクティブシニア）が移住するのに適した地域であることを生かし、三浦半島版のCCRCの実現に向けた取組みを進めます。

○ スポーツ施設の誘致（市町・民間）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

三浦半島は、首都圏にありながらも、豊かな自然環境が保全されていますので、様々なアウトドアスポーツを楽しんでいただくことができます。

そこで、ナショナルトレーニングセンターや、アウトドアスポーツの拠点づくりに向けて大規模なスポーツ大会などを誘致し、トップアスリートとの交流をはじめ、あらゆる世代が気軽にスポーツを楽しめる場づくりを行います。

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

○ グローバル人材を育成する環境づくり（県・市町・民間）

三浦半島は、幕末以来、外国との関わりが深く、国際色が豊かな地域として発展してきており、現在でも、多くの外国人が暮らし、外国人と日常的に触れ合い・交流できる環境が整っていますので、こうした国際性を生かし、特色のあるグローバル人材を育成する環境整備を進めます。

○ 健康団地の推進（県・民間・市町）

海	食	地域	働く	住む
---	---	----	----	----

県営住宅をだれもが健康で安心していきいきと生活できる「健康団地」へと再生するため、空き住戸等を活用し、地域に開かれたコミュニティ活動の拠点づくりを進めます。

SDGsの推進

神奈川県及び鎌倉市はSDGs未来都市として選定されており、SDGsに係る様々な取組みを推進しています。また、三浦半島全域が海や緑に恵まれ、後世に伝えていくべき自然環境ですので、SDGs（2015年9月に国連において採択された持続可能な開発目標）の達成や使い捨てプラスチックごみ減量に向けた取組みを神奈川県及び三浦半島4市1町で積極的に実施し、広く発信していく必要があります。

そこで、SDGsの推進やプラごみゼロ宣言に基づく取組みを全国に先駆け実施することで、持続可能な都市としての魅力を高めます。

海 食 地域 働く 住む



SDGsのアイコン

プロジェクトのねらい

- SDGsに関わる取組みの推進
- 海洋プラスチックごみへの対応
- かながわプラごみゼロ宣言の推進

想定される取組み

○ SDGsつながりポイントの導入推進（県・市町・民間）

SDGsの達成を図るため、ビーチクリーン運動など、地域の社会的課題の解決に向けた取組みに参加した方に「SDGsつながりポイント」を付与し、その「想い」に賛同する企業や店舗でポイントを利用してもらう仕組みを構築することにより、多様な主体の「想い」をつなぎ、行動を後押しします。

○ 海洋プラスチックごみの削減（県・市町・民間）

海 食 地域 働く 住む

ペットボトルの使用抑制やレジ袋削減につながる行動変容を促進し、使い捨てプラスチックごみの発生を抑制するとともに、住民や観光客にSDGsの推進や環境保全へのさらなる意識醸成を図ります。

○ リサイクルされない、廃棄されるプラごみゼロの推進（県・市町・民間）

海 食 地域 働く 住む

「かながわプラごみゼロ宣言」（2018年9月4日発表）に基づき、事業者との連携や県民への普及啓発を通じて、リサイクルされない、廃棄されるプラスチックごみの削減をめざします。

プロジェクトの推進について

- このプロジェクトは、三浦半島の4市1町との意見交換、県民意見募集手続などを通じて、ご意見やご提案をいただきながら、とりまとめたものです。
- このプロジェクトの推進に当たっては、本県の諸計画との整合を図りながら、県と4市1町はもとより、地元の皆様と連携・協力しながら、14項目の個別プロジェクトに取り組んでいきます。
- このプロジェクトの計画期間中は、新たなアイデアや提案に対して柔軟に対応することとし、必要と判断された取組みについては、オープンな議論を経て、プロジェクトに盛り込みます。
- このプロジェクトに示した施策の進捗状況について、成果や課題を分析し、必要な改善や見直しを図っていく必要があります（Plan 計画、Do 実施、Check 評価、Action 改善のPDCAサイクルの構築。）。このため、プロジェクトに示した、指標やKPI（重要業績評価指標）などを基に、実施した施策・事業の効果を検証します。

神奈川県

政策局自治振興部地域政策課

横浜市中区日本大通 1 丁目 231-8588 電話(045)210-3260 FAX(045)210-8837